

# 第 1 7 章 IS-MP-PCモデル： 新しいAD-ASモデル

応用マクロ経済学 2



教員：奴田原 健悟

<http://www.kengonutahara.com/teaching>

# 第17章のアウトライン

## 第17章の授業でやること

- 1 新しいAD 曲線
- 2 新しいAS 曲線
- 3 新しいAD-AS モデルを用いた分析

## 教科書との関係

- ▶ なし

# 1. 新しいAD曲線

# IS-MPモデルとインフレ率

- IS-MPモデルでは \_\_\_\_\_ の硬直性を仮定

- ▶ インフレ率は固定

⇒ Q. インフレ率が変化するとどうなるか？

- IS-MPモデルでインフレ率を上昇させると

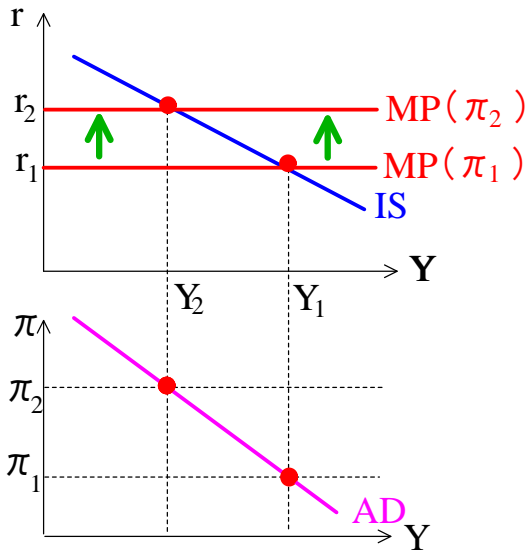
- ▶ MP曲線が \_\_\_\_\_ にシフト

- ★ テイラー原理により、インフレ率の上昇のとき中央銀行は実質利子率を \_\_\_\_\_ させるから (第16章 p9)

⇒ 所得  $Y$  が \_\_\_\_\_

⇐ このインフレ率と所得の関係を図示したのが新しいAD曲線

# 新しいAD曲線の導出



# 政策と新しいAD曲線

- 拡張的財政政策や金融緩和政策は、新しいAD曲線を \_\_\_\_\_ にシフトさせる
  - ▶ インフレ率が一定のままでも、これらの政策は \_\_\_\_\_ を増加させるから
    - ← IS-MP モデルでの政策の効果に対応  
(IS-MP モデルではインフレ率は一定)
- その他の総需要へのショックも新しいAD曲線をシフトさせる
  - ▶ 消費・投資へのショックなど

## 2. 新しいAS曲線

# 新しいAS曲線の導出 (1/2)

新しいAS曲線に対応するのは  
(PC、Phillips Curve)

---

- ▶ インフレ率と失業率は短期的にトレードオフの関係

$$\pi = -\alpha_u u + \alpha_c$$

※  $u$  : 失業率、 $\alpha_u > 0$  と  $\alpha_c$  は定数

の法則によると、失業率と実質  
GDPに負の関係にあるので

$$u = -\beta_Y Y + \beta_c$$

※  $\beta_Y > 0$  と  $\beta_c$  は定数



# 新しいAS曲線の導出 (2/2)

(フィリップス曲線) + (オウクンの法則) から

$$\pi = \gamma_y Y + \gamma_c$$

$$\text{※ } \gamma_Y = \alpha_u \beta_Y, \quad \gamma_c = \alpha_u \beta_c + \alpha_c$$

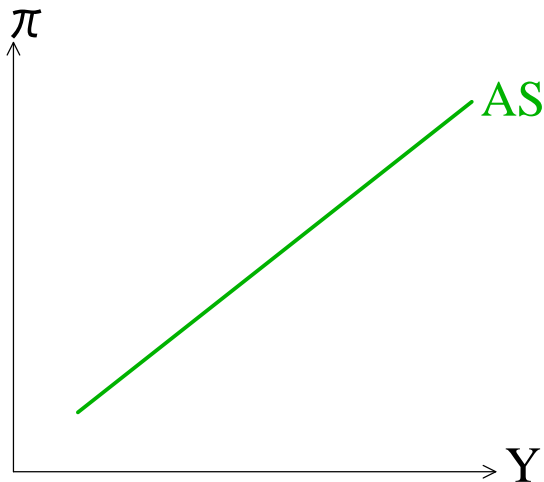
現代版フィリップス曲線 : (=新しいAS曲線)

$$\pi = \underbrace{\hspace{10em}}_{\text{_____}} + \gamma_y Y + \gamma_c$$

- ▶ 期待インフレ率  $\uparrow \Rightarrow$  企業の価格  $\uparrow \Rightarrow$  インフレ率

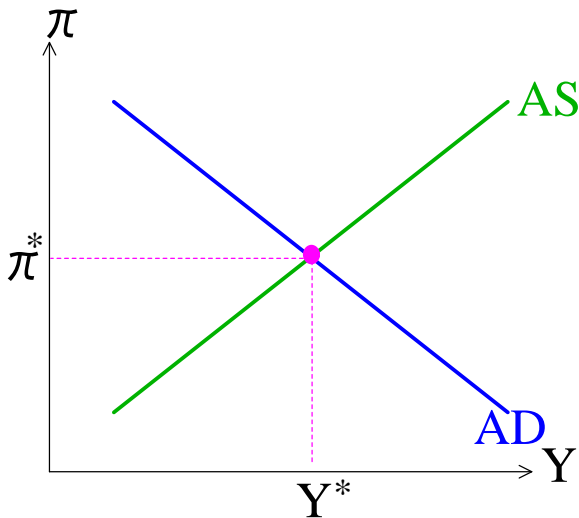
- ▶ 総需要  $Y \uparrow \Rightarrow$  企業の価格  $\uparrow \Rightarrow$  インフレ率

# 新しいAS曲線



# 3. 新しいAD-ASモデル

# 新しいAD-ASモデル



# 新しいAD-ASモデルでの分析

## ① 総需要政策（拡張的財政政策、金融緩和など）

- ▶ AD 曲線の \_\_\_\_\_ シフト
- ▶ インフレ率 \_\_\_\_\_、所得 \_\_\_\_\_

## ② 期待インフレ率の上昇

- ▶ AS 曲線の \_\_\_\_\_ シフト
- ▶ インフレ率 \_\_\_\_\_、所得 \_\_\_\_\_

## ③ 技術進歩

- ▶ 同じ生産量を低いコストで行えるようになる
- ▶ AS 曲線の \_\_\_\_\_ シフト
- ▶ インフレ率 \_\_\_\_\_、所得 \_\_\_\_\_